

Quick Japan

For Your Next Action

Quick・ジャパン

vol.
101

リニューアル
新装刊号

Chim↑Pom

ゆず

大島優子
(AKB48)

本谷有希子

SIMI LAB

園子温

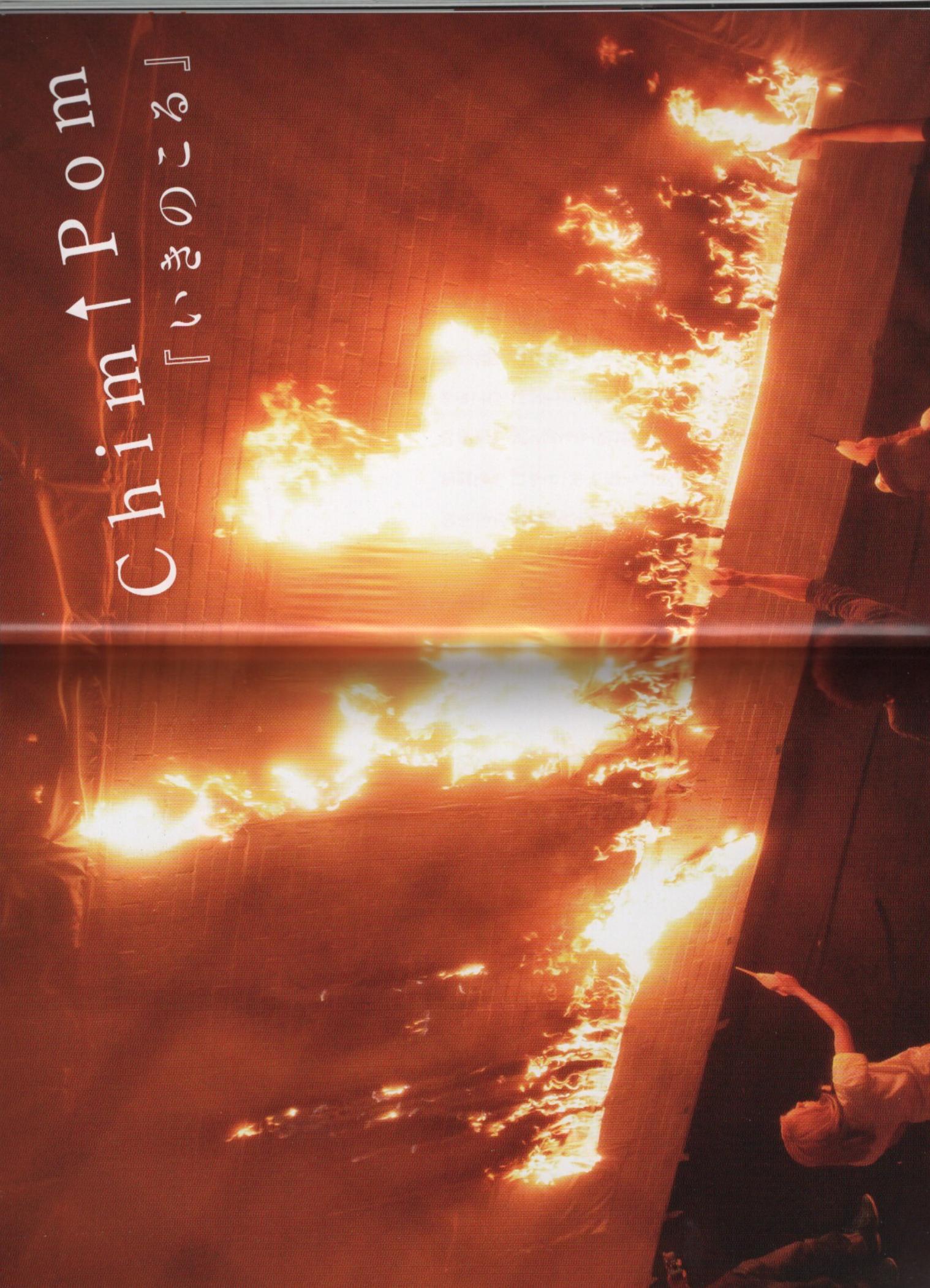
森達也

藤田貴大

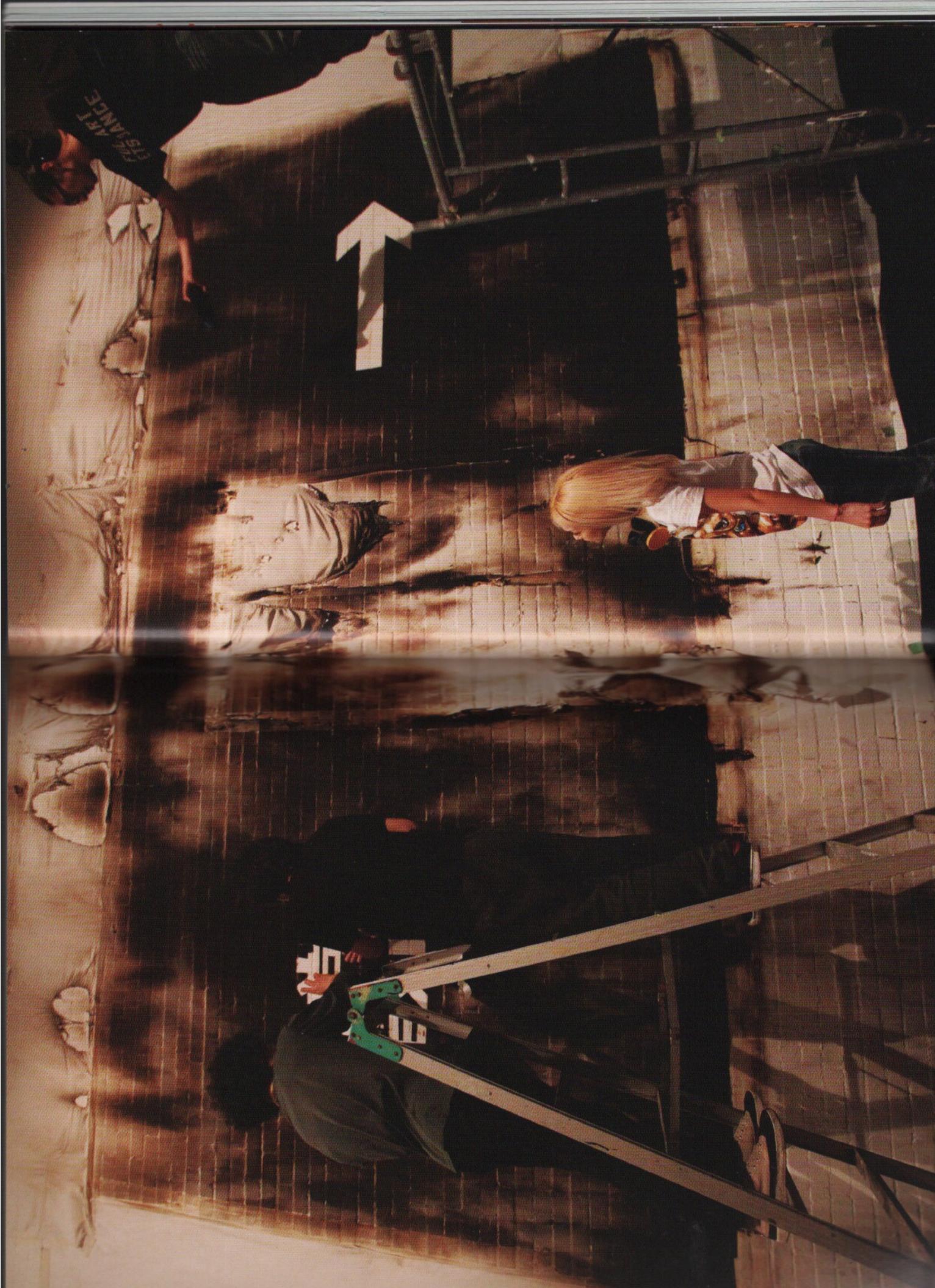
etc.

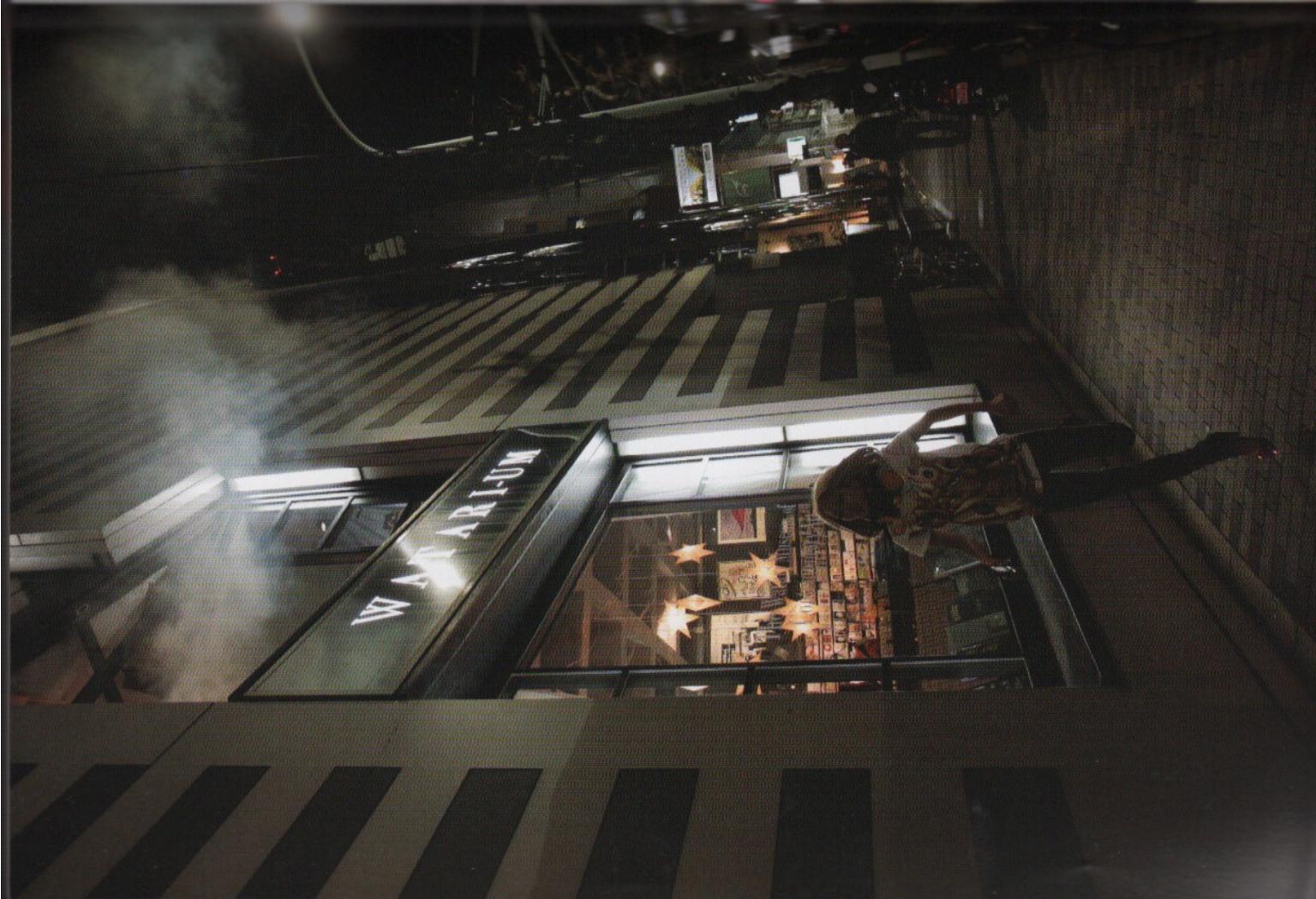
僕たちは
'震災直前'を
生きている。

Chim↑Pom
『いきのこる』











「非常口を見つけるための、 非常時を突破するための、 Chim↑Pom」

炎と煙の中から浮かび上がった作品「いきのこ」。まだ熱の残るワタリガラム美術館で、
Chim↑Pomに、そのコンセプトや背景にある考え方について聞いた。

九龍ジョー=文
iset by Kowloon Joe



Chim↑Pom (5人) (ばむ)

2005年制作。無人島プロジェクト所蔵。
写真左から岡田智洋、卯城竜太、エリイ、林誠高、稻岡求、水野俊紀(水野氏のみ撮影不参加)の6名からなるアーティスト集団。
他にも多数の作品がある。震災後も同時にアクションを起こし「LEVEL 7 heat 明日の神話」REAL TIMESを発表した。

「非常口くん」はどこまで
逃げればいいのか

◆ 燃やす布から燃料のチョイスまで人念に準備しただけあつて、かなりいい感じに図柄が浮かび上りましたね。
卯城 やつてのはうはわかりづらいんですけど、火はちゃんと出でました？
エリイ ガソリンの揮発も早かつたんですけど、かなり大きな炎が出てました。やつてるときはテンションが上がるもんですか？
卯城 いや、これがむしろぜんぜん上がらないんですよ。初めに火を扱つた頃は「ヤバ！」って叫んだりしてなんんですけど、こういうことをやればやるほど冷静と情熱の間というか、バラシスとなるようになつて。しかも隣のエリイち

る危なさと、外から煙を見たときの他人事の感じじ。
◆ その対比はくつきり出てきましたね。
卯城 あとはやっぱり、単純にいまの日本社会の行き詰まつた状況は震災と大ブツて非常時なわけで、それを認識してさらに突破するための非常口を見つけなきやアズイよね、ど。

エリイ そこは「Body Feel's EXIT」(安室奈美恵)でしょう。
林 そういうことを考えてたら、「非常口くん」は

やんが火に近すぎるから、もはや普段以上に冷静に「俺がしっかりしなきや！」って……。

稻岡 エリイちゃん、燃えてる壁に近づきすぎだから(笑)。

エリイ そのほうが写真映りいいからね！

卯城 災害時は恐怖心が身を助けるんだよ！(笑)。

エリイ でも、窓から煙も出てたけど、通りの人たちは慣れっこみたいな感じで歩いてたよね。

林 外でビデオ回してなんだけど、二人組の女性が普通に「火事だねえ」と言いつつ通りすぎていきましたからね。

エリイ カメラマンが沢山いたら撮影してるんだろうなって思つたのかもしれないけど。

岡田 でも、撮影といえどもねえ？ 危機感を持つてほしいものです。

卯城 図柄を非常口にすることで、こうした建物の中と外の関係を考えたかったっていうのもあるんですね。中で火が燃えて

もう外に逃げてるって認定いいんじゃないってことになつたんです。希望がある出口ってことで。

エリイ ホントはもっと遠いところに描きたかったけどね。

稻岡 でも、じゃあどこまで逃げればいいのかっていう問題もあるよね。

エリイ 非常口って、三・一までほんと気にされてなかつたでしょ？ ただのマークみたいな認識で。エリイだって、生まれてから今まで非常口を本来の意味で使つたことないわけ。でも今は、どんな避難経路で逃げられるのかなつて確認するために、非常口を使ってマンションの階段を上り下りしているよ。

岡田 実際に逃げられないダメだからね。今回、「リアル防災訓練」って言つてること、他の防災訓練の生ぬるさつたらしないでしょ？

エリイ 防災訓練で校庭に並ばれるの意味わからないよね。



非常に「前へならえ」なんてやつてゐるヒマはあるの? 命の危険が迫つてるときに並ぶのつて、ナンセンスじやない?

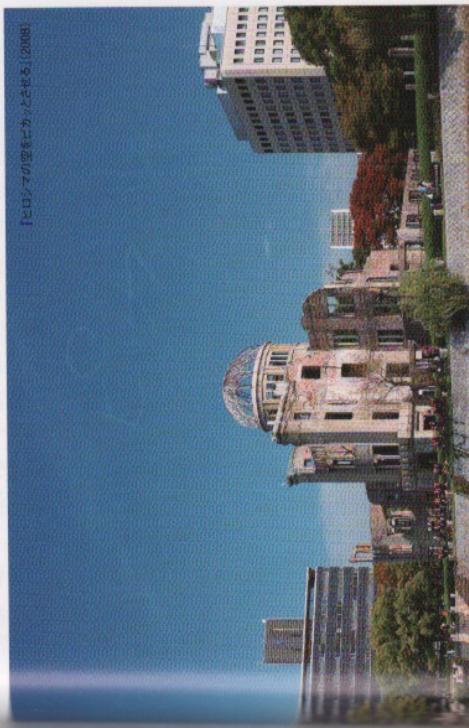
稻岡 震災のときに、石巻の小学校で、校庭が避難所に指定されているからって先生

の指示で待機していたら大半の生徒が津波で流されてしまつたつていうことがあつたよね。

エリイ でもね、エリイだったらもしかしたら津波のほうに向かつてしまつて、死んでたかも。たまたま震災の瞬間は横浜にいて、そこの海には津波がこなかつたからそつならずにすんだわけで……もはや一寸先はわからぬよね。

卯城 だつて、向こう数年間でマグニチュード7・0の首都直下型地震の起こる確率が七

〇パーセントっていうデータもあるんでしょう? 三・一一のときにも、これ東京にも絶対くるから、そのときに備えてChim↑Poの集合場所を決めとこうかつて話になつたもん



ね。

◆——実際に集合場所は決めたんですか?

エリイ うちのワンちゃんの前。

稻岡 渋谷のハチ公前のことです(笑)。

◆——Chim↑Po

ヨの作品つて『スレバーランド』や『ビロシマの空をビカッとさせる』など、平和な日常がベースにあって、そこに一石を投じるような側面もあるつたと思うんです。それが、日常を支える条件が変わつたいま、作品づくりにも変化があつたりしますか?

岡田 今回の『リアル防災訓練』にしても、いままでだったらバイオレンスなものは身近

な素材じゃなかつたし、火が燃えるのがかつていいとかだけを考えてやつてたと思う。でも、いまとなつては、見てる人ども共有できてしまう状況つていうのがありますね。

エリイ うん、共有はいいと思ふうね。

卯城 だから、最終的に非常口になつたけど、図柄に関しては悩みましたよね。「震災直前」つていうコンセプトをもらつた

けど、その前から常に自分らが震災前つていう空気を感じてしまつているわけです。地震も多いし。もはや警告でもなく、どこかが遠いところに接続しようつて超せつぱつまつてる感じがあるんですよ。

エリイ 小説の『コインロッカーベイビーーズ』(村上龍)みたいな感じだよね。何も起きてない

ときに読んだらバラルワードの話に感じられるけど、いまや……みたいな。

◆——これまでの作品にも、どこか「死」のイメージが漂つてましたが、いまはどうですか?

卯城 『REAL TIMES』で福島第一原発に接近したあたりで、明確に変わりましたね。遠いイメージを呼び寄せてはいるつていうことじゃなくて、「死」がすごく身近なものに感じられて。とにかく死にたくない、早く終わらたいと思って撮影してましたからね。

稻岡 あのときは撮影計とか持つてなかつたんで、地面がシベルトかも全然分からぬ状況だったんですよ。

岡田 風景は普通なんだけど、それがかえつて怖かつたですね。

エリイ ホント死にたくない。

卯城 去年がそんなマジでリアルな感じで生きていたから、いまはそういうダイレクトな表現からさらに一週して、もうちょ



つと漫画っぽい感じも入れてみようか？みたいだ。ヴァーチャルなものがリアルになって、さらにいまはリアル・ヴァーチャルっていう不思議な感覚になってしまいます。

誰でも使える 手法としてのアート

◆——そんな中、Chim↑Pomの活動はより加速しているもうに見えるのですが、いま「アートは使える」って感じですか。

卯城 まさしく、そう。もちろん、津波の映像はものすごくたたし、今はや実拍子もない風景をアートでつくる意味なんて薄いんじゃないかなって思つたこともあります。でも、「REAL TIMES」のようなことをやってみて、メディアも機能しない、政治も機能しないいつどきに、自分の身体ひとつでできるひとでやれることが大きさっていうか、アートも含めて文化の力を

実感したんです。特にアートは誰でも使える手法だし、衝撃を伝えることから共感や議論を呼ぶのに向いている。アートが目的よりも手段になってしまっているんじやないかと。ただ、それを「アートの役割」って言いきつちやうと面白くないんですね。いずれにせよ、とにかくアクティヴィストやブランク・スター（いたずらるもの）みたいな人たちは、そういう手段として使つていると思します。

エリイ だからといって、町中でどうひなことをして人目を引くだけじゃしうがなくて、もつと普遍的な面白さがないんだ



は悪意的なイメージがあるかもしだいけど、みんなさん、むしろ真面目すぎるくらいですもんね。

エリイ エリイも含めて、みんな前の中で。

エリイ クラスのしゃべるんだ？

林 でも、まあ間違つてはいないかも（笑）。

岡田 それに関しては、グループ体制つていうのも大きいと思います。

◆——ひとくちに防災訓練といつてもいろいろですが、今回は火を使いましたね。

卯城 火つて間近で見ると、なにか感じるものがあるじゃないですか。

メだよね。ただひっくりさせたいつていうのはナンセンスだし、そういう顯示欲が意外となじどころがうちらのがポイントかなつて、私は思つてします。

◆——Chim↑Pomは世間で

ですか。問答無用に怖いし、危ないし。そういう誰にでも通じる力は常に借りるようにしていて。それは『LEVEL 7 feat. 明日の神話』の岡本太郎さんの壁画でもそう。みんなの中に共通してあるイメージは大事にしようと思つてゐるんです。今回の展示（『ひっくりかえる展』）で呼んでいるアメリカのイエスメントっていう二人組は、「NYタイムズ」のデザインをまんま使ってイラク戦争終結の号外を出したりしているんです。それつて一見「NYタイムズ」をディスつてるように見えるかもしれないけど、「NYタイムズ」が持つてゐるイメージ比、アートがやれる「ひび」、さらにはショックもあって、本当はそれらのハイレベルな調和になつてゐるはずなんですね。

◆——世界的にデザインの違いはあるけど、「非常口＝EX-1工」っていうのも、誰にでもわかるイメージですね。

卯城 そうなんです。アラブの春とか、ニューヨークのオキパイとか、日本でもテモが起きたり、政治や経済含めて世界が非常事態になつてゐることを認識して、動き出している人がたくさんいる。それはアートにも言えて……つていうか雑誌だつて行き詰まつますよね。

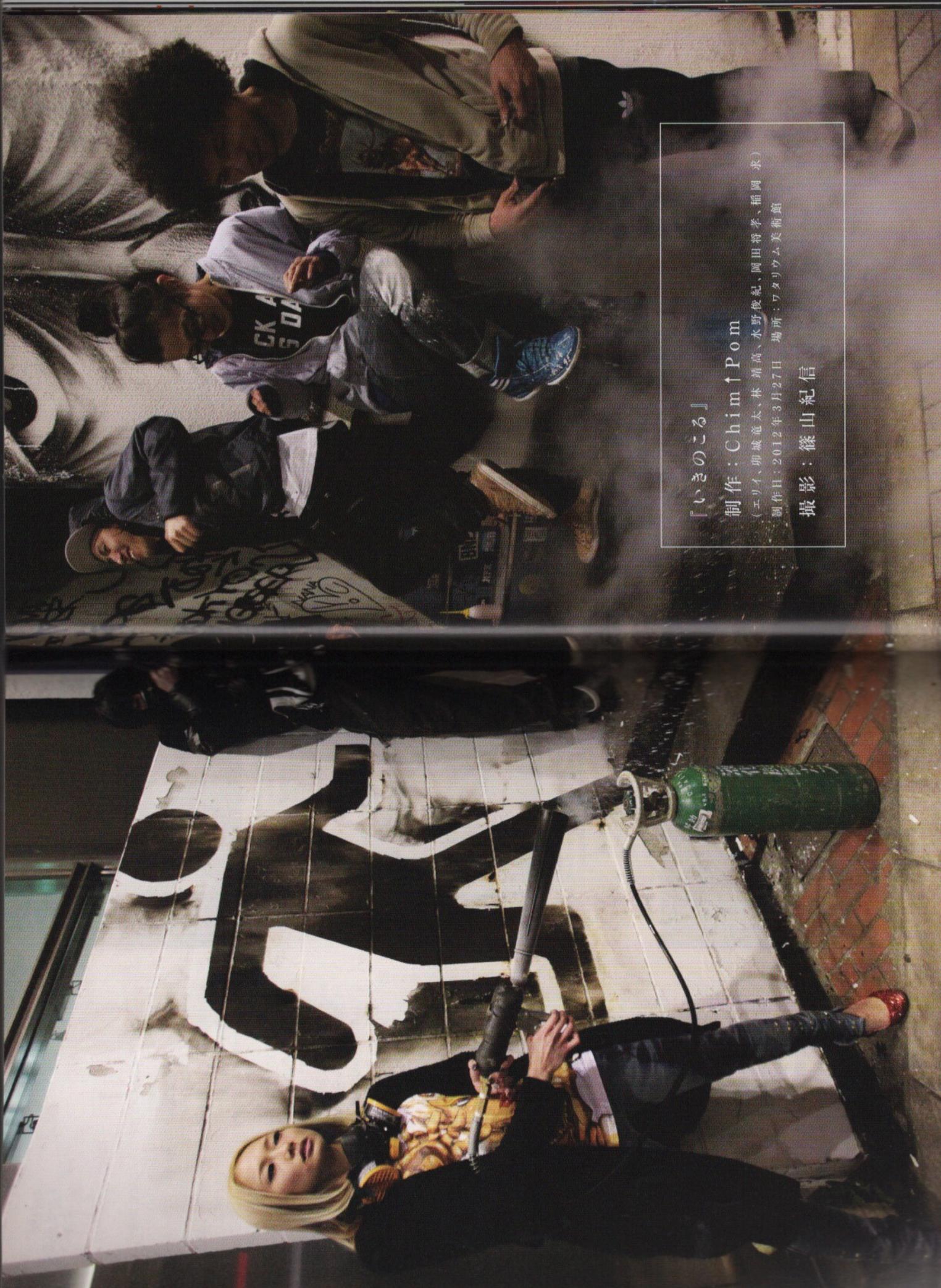
エリイ みんな突破したいってことだよね。

卯城 そう、だからこそ「いきのこる」っていう意志と、それを実際の行動に繋ぐ出口としての非常口なんです。

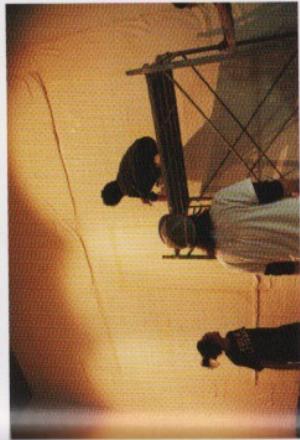
「ひっくりかえる展」

Chim↑Pomが初のキュレーションによる地元だ「ひっくりかえす展」。社会の変動を目指し行動する「ひっくりかえす」のアーティストを招集。（いきのこる）も開催されます！
会期：2012年4月1日～7月8日
場所：ツタヅク美術館
開催時間：11時～19時まで（毎週曜日は21時まで延長）
休館日：4月29日（月曜日）4月30日（火曜日）
参加アーティスト：Chim↑Pom, JR（フランス）、VOLNA（ロシア）、Adusters（カナダ）

『いきのこる』
制作：Chim↑Pom
(エリイ、卯城竜太、林靖高、水野俊紀、岡田将孝、福岡求)
制作日：2012年3月27日 場所：ワタリヴム美術館
撮影：篠山紀信



『「いきのこる』ための リアル防災訓練



美術館の壁に貼られた布にガソリンを洒らせていく。一度燃やしては火を消すと修正できない。キー・ス・ヘリックやバー・マチューのグラフィティと共に。

1



火は上へとあがるので、下からつけて燃え広がせる。火の道もさることながら、燃費もあり、キャリーのいる一階上のアロアの室温はかなり高くなっていたという。

2



火が燃まると目や、プラスチックボトルに入れてくれるガソリンを掛けている。事前に灯油などで実験したが、最終的には揮発性の高いガソリンが最も上がることがわかった。

3



美術館の他の別の建物でも、同要領で外壁を燃やしていく。「非常口」は撤去。キー・ス・ヘリックやバー・マチューのグラフィティと共に。

6



燃え広がった様の全体図。こうして見ると、かなりコントロールされて燃えていることわかる。とはいっても美術館の壁を燃やすところはかなり危険な行為だ。

5



火が燃まない場合、火薬筒を投げて空気が入らないので、そこだけ煙がきれいに白く残り、同時に煙が浮かび上がるという裏面。

4

最初、現場に入って「今日はどんな感じなの?」ってメンバーに聞いたら、メンバーも「どうなるかがほん」と言ふんだよ(笑)。でも、なんひとつ先は聞なんだから、問題ないよね。人生とか時代ってのは、その状況に対応してだれ鮮烈に応えていいしかないんでですよ。起こったことに反応するやいんだ。だから、「ライト明るくしましょうか?」とか、そんなのどうだつていいんだよ。これから起ころごとに、僕がちゃんと真摯に、対峙出来れば。Chim↑Pomが作品につくる気持ちと一緒にですよ。

エリイ 篠山さん、ありがとうございます。今日は一緒にできてすごうれしかった!

篠山 君たちがやってることにシンパシーを感じるよ。いいなあって、ホント。時代をシットと離れたところが最高ですね。アートでも、現実とちょっとと離れた一段高いところで見てるところが最高ですね。アートでも、現実で時代の映し鏡だと思ってるのは、時代と鮮烈に交わるっていうのは、芸術なんかよりもっとすごいことだからね。そういうやChim↑Pomの矢印(!!)はなに?

エリイ 矢印は……アゲ!

篠山 いいね! 僕もすごく高揚したものん。いかに自分のエネルギーをパンツ、テンション上げられるかが重要なんだ。下手すると負けちゃう。でも僕は強いのが来るると「ニヤロリ!」って、逆に強くなるんだよね。向こうがシンponしていると、僕も「フーン……」って。相手次第だよね。だから今回もページがどうとかはあんまり考えてなくて、彼らと併走してある時間を共有すれば、からなずなにかが写っているっていうふうに思うしかないわけ。

エリイ 動けたまうまいよね。なにかが起ころうか知らないんだから。

篠山 あ、逆らわないことね。「そこの屋の中で苦しそうな顔」などとか言ったら最悪なんだよ。エリイが自分で行くと言つて。そうすると撮られるんだ(P.24参照)。

エリイ あの屋の中に入りたいと思った。

篠山 そう、僕がやれって言ったって絶対みんな顔しないよ。でもさ、君たちってメンバーーずっと変わらずに仲良くなってるね。

エリイ そこがみんなの絆になってるんだね。グリエイティに 대해서すごく真剣。

篠山 そこがみんなの絆になつてるんだね。

エリイ そう、妥協しないとか、より面白いほうがいいってことで一致しているんじゃないかな。だからやつていいんだと思う。プライベートとかべつに知らないうち。

篠山 僕ですら「エリイ!」って呼ぶじゃん? メンバーはほんなふうに呼ばないものね。「エリイちゃん!」って言う。「なに、この他人行儀感は?」って(笑)。そこも重要なね。メンバーの中で誰かとヤッてるカ飞翔していないんだよ。

エリイ ヤッてないよ!

篠山 まあ、ヤッたら「おい、エリイ!」って言うな(笑)。「エリイちゃん!」って呼ぶのは、彼女に対するシンナーーとのハスベクトがあるから、その先を超えないでいる距離がちゃんとあるんだ。いいクリエイターたちだよ、ホント。

2012年3月27日。

「僕たちは(震災直前)を生きている。」というテーマで作品をつくってほしいという小説のクリエストに対し、ワタリム美術館を駆けめぐらしながら、『「いきのこる』』という作品で応えてくれたChim↑Pom。当日の模様を実況する。

九龍ジョーライ
text by Kowloon Joe
photo by Nobuyasu Yamazaki